

第2回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和5年7月14日（金）10時～15時 参加者：43名（うち市町村等から23名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

「保護者の声を聴き、気持ちが前向きになるかわり方やつながり方を学ぼう」というテーマのもと研修を行いました。午前は、学校と協働して行う子どもや保護者への支援について学び、情報交換をしました。午後には、保護者の不安や悩みを聴く「傾聴」についての基本的な姿勢を学び、支援チームとしてのスキルを高めました。

【午前の部 ①講話 ②情報交換】



前鷹巣小学校校長の **木下 隆** 氏が「学校との協働で進める子ども・保護者への支援～子どもや保護者の思いを受け容れ、見守り、つなげ、支え合うために」と題してお話されました。はじめに、自身がかわった子どもたちや家庭とのやりとりについて、どのような言葉かけをすることで変容があったのかや、信頼関係を築くために大切なことなどを紹介されました。子どもの行動の背景を探ること、子どもたちのマイナス面だけを見るのではなくプラスの面を見つめることが大切だと述べられ、支援チームが参加者に子どもや保護者とのかかわる際のヒントを与えてくれました。

講話のまとめでは、子どもや保護者の思いを受け容れ、「心配」から「信頼」へ関係が変化するための伴走型の支援の大切さについて述べられ、参加者は大きく頷きながら聴いていました。

情報交換では、「学校との協働で進める子ども・保護者への支援」についてグループごとに話し合いました。途中でグループのメンバーを入れ替え、多くの皆さんと情報を交換する機会をつくりました。様々な職種の方の取組を知り、色々な立場の方々の考えを知り「自分に何ができるのか」を考えるきっかけづくりとなったようです。

【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・講話はとても参考になりました。保護者・支援チーム側のことは分かるのですが、先生側のお話を聞いてなるほどと思いました。
- ・行政の方の考えや実際にボランティアをしている人の意見や考え、それぞれの立場の方の話が聞けて充実した情報交換の時間でした。

【午後の部 講話・演習】

秋田メンタルケアカウンセリング傾聴代表 **木場 和子** 氏に、「やさしい傾聴とコミュニケーションについて」と題してお話いただきました。はじめに、傾聴とは何か、傾聴の技法について丁寧に説明されました。また、相談のあった具体的なケースをもとに、相談に訪れた方々との心のふれあいや、がんばっている日々を受容してもらえたことによって相談者が前向きな心の変化を遂げたことなどについて紹介されました。



演習では、はじめにセンター職員を相手に「相談する側・される側」になって「悪い傾聴例」を役割演技しました。参加者は、相談される側の「受容」「共感」「オープンクエスチョン」「要約」「オーム返し」などの傾聴が意識されていない会話を「第三者の目」で見ることによって、相手を意識した様々な傾聴技法のある会話の温かさに気付くことができました。続いて、参加者同士のペアで、「相談する側・される側」になって「傾聴技法を用いた良い例」を体験しました。このことによって、参加者は改めて傾聴の大切さについて納得されたようでした。次に、コミュニケーションについて、非言語コミュニケーションの大切さについても説明され、場の雰囲気や相談される側の口調や表情も良好なコミュニケーションを築く上で大切な要素であることを確認しました。

最後に、先生の人柄が溢れる温かいムードに包まれた講話は、全員で歌を歌い和やかに締めくくられました。

【午後の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・非言語コミュニケーションで第1印象が決まると聞き、見た目や服装、口調・声の大きさや速さなど心にとどめてコミュニケーションをとっていききたい。
- ・傾聴対応を実際に行ってみて、聴き手の言葉や態度で心が軽くなると感じたり、もう相談したくないとまで思うことがあったりずいぶんと感じ方が違うことに驚いた。